

坂城町埋蔵文化財調査報告書第21集

# 町内遺跡発掘調査報告書 2001

—平成13年度試掘調査報告書—

2002. 3

坂城町教育委員会

# 町内遺跡発掘調査報告書 2001

—平成13年度試掘調査報告書—

2002. 3

坂城町教育委員会

## 例 言

- 1 本書は長野県埴科郡坂城町における開発事業に伴う、平成13年度の町内遺跡の試掘調査報告書である。
- 2 調査の費用は、国庫及び県費の補助を得て可費で対応した。
- 3 調査の体制  
調査指導者 塩入 秀敏（上田女子短期大学教授、日本考古学協会会員）  
担 当 者 助川 朋広（坂城町教育委員会学芸員）  
齋藤 達也（坂城町教育委員会学芸員）  
協 力 者 朝倉 妙子、天田 澄子、小宮山 秀子、坂巻 ケン子、塚田 さゆり、萩野 れい子（以上、町臨時職員）
- 4 事務局の構成  
教 育 長 大橋 幸文  
教 育 次 長 宮原 健一（生涯学習課長兼務）  
文化財係長 池田 弥惣  
文化財係 助川 朋広（前出）、齋藤 達也（前出）  
朝倉 妙子、天田 澄子、小宮山 秀子、坂巻 ケン子、塚田 さゆり、萩野 れい子（前出）
- 5 本書の執筆・編集は齋藤が行った。
- 6 本書及び調査に関する資料は、坂城町教育委員会の責任下において保管されている。

## 凡 例

- 1 本文中の面積は、開発対象面積と調査面積を記載し、（ ）内に調査面積を記載した。
- 2 挿図の縮尺は、各図ごとに縮尺を示した。

# 目 次

例言	
凡例	
第Ⅰ章 坂城町の遺跡の立地と環境	1
第1節 地理的環境	1
第2節 歴史的環境	1
第Ⅱ章 調査の結果	5
1 土井ノ入竈跡 2	5
2 込山B遺跡 2	7
3 大木久保遺跡	9
4 四ツ屋遺跡群 4	11
5 南条遺跡群 2	13
6 四ツ屋遺跡群 5	15
7 豊饒堂遺跡Ⅱ	17
8 上町遺跡 2	18
9 御堂川古墳群前山支群 2	20
10 保地遺跡 2	22
11 四ツ屋遺跡群 6	23
12 四ツ屋遺跡群 7	25
報告書抄録	

# 第I章 坂城町の遺跡の立地と環境

## 第1節 自然的環境

坂城町は北信地方と東信地方の接地点にあたり、善光寺平を構成する更埴地方の最南端に位置する。また、町は貫流する千曲川の氾濫によって形成された氾濫原と、千曲川に流れ込む小河川がつくりだす扇状地によって形成された坂城広谷と呼ばれる幅広い貫通谷に立地している。町の北から東にかけては五里ヶ峰・大峰山・虚空蔵山をはじめとする標高1100～1300m前後の山々が連続し、更埴市・真田町・上田市との市町村界を形成し、西は大林山、三ツ頭山などの標高1000m前後の山々が連続し、上山田町・上田市との市町村界となっている。南は千曲川右岸の岩鼻と左岸の半酒の岩鼻が狭隘な地形を形成し、上田盆地と隔てられている。このような地形から、古来よりこの地域は千曲川流域の要衝の地として注目されてきた。

この地域の気候は、南北に開けた広谷をなしていることから、季節風の影響を受けやすいため、夏季は南風、冬季は北風が強い。また、盆地状になっていることから寒暖の差が大きい。降水量は少なく、日本で最も雨量の少ない地域の一つとされている。現在では、この気候を生かして、工業が主要な産業となっており、農業では、バラ・りんご・ぶどうの栽培が盛んである。

## 第2節 歴史的環境

ここで、坂城町の各時期について代表的な遺跡を挙げつつ、町の歴史的環境について概略的に触れておくこととする。(括弧内の数字は「坂城町遺跡分布図」における遺跡番号を示す。)

坂城町で最古の遺物は、約14,000～15,000年前の後期旧石器時代の上ヶ屋型彫刻器とされる石器である。この石器は保地遺跡(1-3)より採集されたもので、これ以外に後期旧石器時代の遺物は確認されていない。

縄文時代の遺構・遺物では早期押型文系の土器が和平A遺跡や平沢遺跡で採集されている。また、平成12年度に発掘調査が実施された込山C遺跡(30-3)からも押型文系の土器片が出土しているが、これらは現在整理中である。この他に込山C遺跡では縄文時代前期・中期の土器も確認されている。後期・晩期では、学史的にも有名な保地遺跡が挙げられる。保地遺跡は昭和40年度と平成11年度に発掘調査が実施されている。前者は縄文時代後期後半から晩期後半までの土器・石器群と、後期後半に属するとされる特殊儀礼的遺構の出土が『考古学雑誌』に報告されている(関 1966)。後者については今年度報告書を刊行する予定である。他には、込山D遺跡(30-4)から昭和初期に採集された遠光器土偶の頭部が挙げられる。

弥生時代では、中期以前の調査例がないため状況は不明である。後期後半では、平成5年度に南条地区の塚田遺跡(1-7)で発掘調査が実施され、この時期に属する竪穴住居址36棟をはじめとする遺構と、土器、石器、土製品、及び鉄器などが出土している。

古墳時代では、前期古墳は確認されていないが、中期古墳には飯称東平1号墳・2号墳が挙げられる(註1)。これらは、平成5年度に実施された上信越自動車道建設に伴う発掘調査で、埴輪や土器などの出土から、1号墳は5世紀第2四半期後半、2号墳は5世紀第2四半期前半に位置付けられた(若林 1999)。後期古墳では、町内でもいくつかの古墳群の存在が知られているが、中でも代表的なものは村上地区の福沢古墳群小野沢沓群に属

する御厨社古墳である。内部施設に千曲川水系最大の横穴式石室を持ち、室全長11.2mを測り、勾玉や切子玉、耳環などが出土している。古墳時代後期の集落・祭祀遺跡では、環状に配列された土器群が検出され、全国的にも注目された青木下遺跡(1-8)が代表的である。青木下遺跡は現在整理中である。

奈良時代・平安時代の遺跡では、中之条地区の中之条遺跡群(8)とその周辺遺跡に多くの調査例があり、この地域における奈良・平安時代の状況が徐々に解明されつつある。具体的には、寺浦遺跡(8-1)、豊饒堂遺跡(20)、上町遺跡(8-2)、東町遺跡(8-3)、宮上遺跡(8-5)、北川原遺跡(8-6)、開畝遺跡(21)で調査が実施され、古墳時代後期後半～平安時代までの集落遺構と遺物が多数出土している。また、平安時代の生産遺跡として坂城地区の土井ノ入窯跡(32)があり、瓦の生産が行われていたことが分かっている。ここで生産された瓦は、現在の坂城小学校が建設されている場所に8世紀末から9世紀頃に存在していたとされる込山廃寺(54)に用いられたほか、上田市信濃国分寺・国分尼寺、更埴市正法廃寺の補修用の差し瓦として使用されていたことが判明している。

中世に入ると、平安時代後期、寛治8年(嘉保元)(1094)に村上地区に配流されてきた源盛清が後に村上氏として勢力を持つようになり、戦国時代には村上義清が活躍するようになった。義清の頃、村上氏の居館は現在の満泉寺一帯に所在したとされ、その背後にそびえる葛尾山の山頂には、義清が使用した葛尾城跡があるが現存していない。このほか、中世の遺跡では坂城地区の観音平塚をはじめとする経塚と中之条地区の開畝製鉄遺跡(53)がある。観音平塚は昭和54年と平成4年に調査がおこなわれたが、平成4年の調査では、経塚の年代は14世紀第2四半期とされ、その周辺の五輪塔群の造営時期は14世紀第2四半期から16世紀前半頃に位置付けられている(若林 1999)。開畝製鉄遺跡は、昭和52・53年に坂城町教育委員会によって学術調査が実施され、16世紀頃の製鉄炉址2基が確認されている。この調査は県内初の製鉄遺跡の学術調査として学史に位置付けられる。

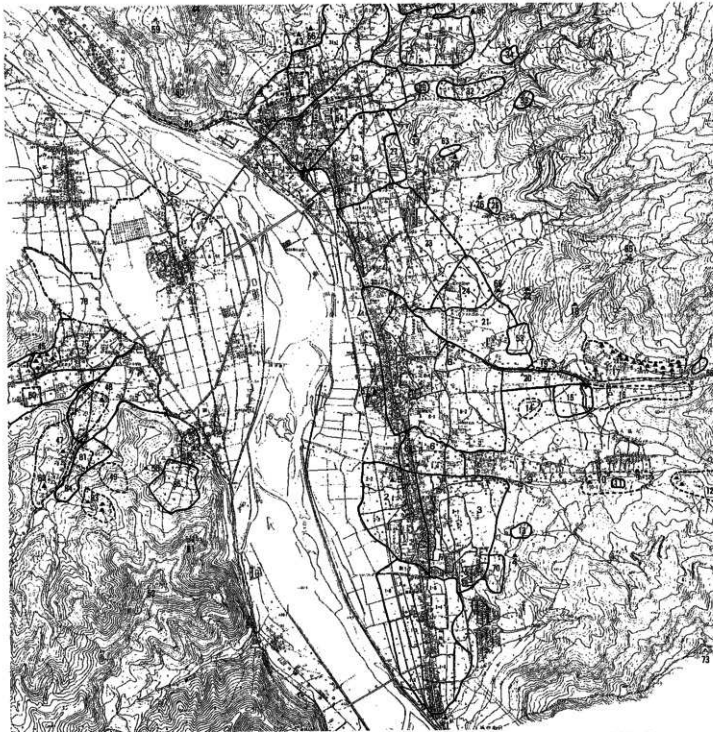
近世、江戸時代に入ると、現在の坂城地区と中之条地区を主体とする坂木村、中之条村は元和8年(1622)に幕府代官所が置かれ、以後明治維新まで天領として支配された。この地域を重要視していたことがこのことからうかがわれる。陣屋は最初、坂木(61)に置かれたが、明和4年(1767)に焼失し、その後、安永8年(1779)中之条に陣屋(67)が置かれるようになった。

以上、坂城町の歴史について概略した。

註1 周知の御堂川古墳群東平支群1号墳・2号墳とは異なる可能性があるため、仮称とされている。今後、正式な古墳名称の確定が必要である。

#### 参考文献(五十音順・敬称略)

- 小平 光一 1996『豊饒堂遺跡・上町遺跡・寺浦遺跡・東町遺跡』  
坂城町教育委員会 1978『開畝製鉄遺跡-第1次調査報告』  
坂城町教育委員会 1979『開畝製鉄遺跡-第2次調査報告』  
助川 朋広 1993『中之条遺跡群宮上遺跡Ⅱ』坂城町教育委員会  
1994『南条遺跡群東裏遺跡Ⅱ・青木下遺跡』坂城町教育委員会  
1996『中之条遺跡群寺浦遺跡Ⅱ』坂城町教育委員会  
2000『開畝遺跡Ⅲ』坂城町教育委員会  
関 孝・ 1966『長野県埴科郡保地遺跡発掘調査概報』『考古学雑誌』第51巻第3号  
森嶋 稔ほか 1981『坂城町誌』中巻 歴史編(一)  
横沢 亮 1998『第5節 開畝遺跡』『北陸新幹線埋蔵文化財発掘調査報告書2』(財)長野県埋蔵文化財センター  
若林 卓 1999『第9章 東平古墳群』『第11章 観音平塚』『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書21』(財)長野県埋蔵文化財センター



- 1 南条遺跡(弥平) 1-1 東裏遺跡(弥平) 1-2 御殿裏遺跡(弥平) 1-3 百々目遺跡(弥平) 1-4 中町遺跡(新橋)(弥平)
- 1-5 田町遺跡(弥平) 1-6 廻り目遺跡(弥平) 1-7 坂田遺跡(弥平) 1-8 青木下遺跡(弥平) 2 金井古遺跡(弥平)
- 2-1 金井遺跡(弥平) 2-2 社宮神遺跡(弥平) 2-3 原木下遺跡(弥平) 3 金井本遺跡(弥平) 3-1 保尾遺跡(弥平)
- 3-2 山金井遺跡(弥平) 3-3 大木久保遺跡(弥平) 3-4 酒玉遺跡(弥平) 4 栗ヶ谷古墳(古墳) 5 社宮神経塚(中世)
- 6 町橋尾遺跡(弥平) 7 北瀬古墳(古墳後期) 8 中之条遺跡(弥平) 8-1 寺浦遺跡(弥平) 8-2 上町遺跡(弥平)
- 8-3 東町遺跡(弥平) 8-4 北浦遺跡(弥平) 8-5 宮上遺跡(弥平) 8-6 北川原遺跡(弥平) 9 南条塚古墳(古墳後期)
- 10 谷川古墳群(古墳後期) 10-1 入鏡尾野向山古墳(古墳後期) 10-2 入鏡尾野野塚古墳(古墳後期) 11 入鏡尾遺跡(弥平)
- 12 谷川古墳群上原支群(古墳後期) 13 前原塚古墳(中世-近世) 14 御堂川古墳群山口支群(古墳後期) 15 山崎遺跡(弥平)
- 16 御堂川古墳群山崎支群(古墳後期) 17 御堂川古墳群前山支群(古墳後期) 17-1 前山1号墳(古墳後期) 17-2 前山2号墳(古墳後期)
- 17-3 前山3号墳(古墳後期) 17-4 前山4号墳(古墳後期) 17-5 前山5号墳(古墳後期) 17-6 前山6号墳(古墳後期)
- 18 御堂川古墳群東平支群二塚古墳(古墳後期) 19 御堂川古墳群山田支群(古墳後期) 20 豊地遺跡(弥平-弥) 21 簡橋遺跡(弥平)
- 22 入鏡古墳(古墳後期) 23 田ヶ屋遺跡(弥平) 24 成久保遺跡(古-近世) 25 入田遺跡(弥平) 26 塚内古墳(古墳) 27 金比羅山遺跡(弥平)
- 28 蓮平塚(中世) 29 駒の原遺跡(弥平) 30 込山遺跡(弥平) 30-1 込山A遺跡(弥平) 30-2 込山B遺跡(弥平)
- 30-3 込山C遺跡(弥平) 30-4 込山D遺跡(弥平) 30-5 込山E遺跡(弥平) 31 日名沢遺跡(弥平) 31-1 日名沢遺跡(弥平)
- 31-2 丸山遺跡(弥平) 32 十井ノ入塚(弥平) 33 平林遺跡(弥平) 34 畑刈塚(弥平) 37 金比羅山古墳(古墳後期) 38 村上氏塚(中世)
- 43 翠田遺跡(弥平) 48 小野沢遺跡(弥平) 49 福沢古墳群地安支群(古墳後期) 50 福沢守墓古墳(古墳後期) 51 狐尾塚(中世)
- 52 三木塚(中世) 53 藤原野遺跡(中世) 54 込山神社(中世) 55 観音寺(中世) 59 葛尾塚(小塚(中世)) 60 原塚(中世)
- 61 取本代官所(近世) 62 田町遺跡(古-平) 65 中之条石切塚(近世) 66 砥沢古墳(古墳後期) 67 中之条代官所(中世) 68 尾組遺跡(弥平)
- 69 観音塚(中世) 70 南郷の川遺跡(弥平) 71 口留所(近世) 73 高ツヤ塚(中世) 78 上五町里木田塚(近世)
- 85 柳橋遺跡(弥平) 89 上平賀塚(弥平) 90 横吹北原遺跡(近世)

坂城町遺跡分布図



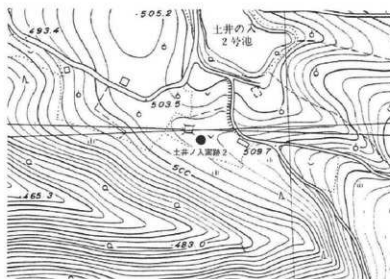
試掘調査位置図 (1 : 25000)



## 第Ⅱ章 調査の結果

### 1 どいのいりようせき 土井ノ入窯跡 2

所在地	坂城町大字坂城 5523-1ほか
事業主体	長野県教育委員会
事業名	坂城高校第2グラウンド造成
調査期間	平成13年4月23日～ 平成13年4月26日
面積	5505㎡ (362㎡)
担当者	齋藤 達也



試掘調査位置図 (1:2500)

#### 遺跡の環境と調査に至る経過

土井ノ入窯跡は、「坂城町遺跡分布図」によると、坂城地区を流れる垣外沢川の南側、標高約480m～550mの斜面上に位置する。本窯跡は、須恵器及び瓦の窯跡として古くからその存在が知られ、本窯跡周辺には、岡ノ原窯跡、垣外窯跡といった窯跡も確認されている。

本窯跡は昭和41年に大川清・米山一政両氏らによる発掘調査が実施され、3基の窯跡が確認され、瓦や須恵器が出土している。特に、本窯跡より出土した瓦と同様のものは、本窯跡の西約1kmに位置する込山庵寺や、上田市の信濃国分寺や国分尼寺、更埴市の正法庵寺でも出土しており、本窯跡で生産された瓦がこれらの寺院で用いられていたことが分かっている。

今回、長野県教育委員会による坂城高校第2グラウンドの造成が計画され、遺跡が破壊される恐れが生じたため試掘調査を実施することとなった。



7号トレンチ検出状況 南より



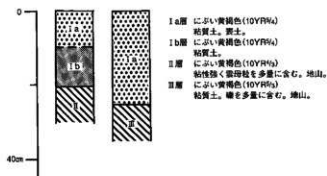
2号トレンチ検出状況 東より

## 調査の結果

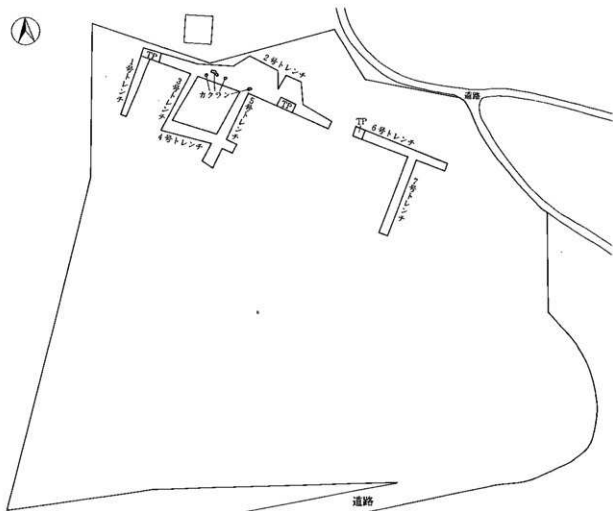
開発対象地の地形を考慮すると、遺構が存在している可能性があるのは、対象地の中でも北側の斜面と思われた。そのため、北側斜面部分に下图のようにトレンチを設定して、遺構・遺物の確認を行った。

地山は地表下約30cm程で確認できたため、この面で遺構の検出を試みたが遺構・遺物は、共に検出されなかった。

町内で出土する古墳時代～平安時代の上師器の胎土に多くの雲母粒子が混入することは以前から注目されていた。今回の調査によって、基本層序模式図の第Ⅱ層の土壤に多くの雲母粒子が含まれた状況が確認されたことから、土師器の原料である粘土をこの周辺で採取したのではないかと考えた可能性が出てきたことは大きな成果といえよう。



基本層序模式図



試掘トレンチ設定図 (1 : 800)

## 2 こみやま 込山B遺跡 2

所在地	坂城町大字坂城字社宮 神6113-2ほか
事業主体	坂城町土地開発公社
事業名	宅地造成
調査期間	平成13年4月26日～ 平成13年5月7日
面積	1025㎡ (471㎡)
担当者	齋藤 達也



試掘調査位置図 (1:2500)

### 遺跡の環境と調査に至る経過

込山B遺跡は日名沢川によって形成された扇状地上に位置し、標高415m前後を測る。込山B遺跡は込山A～E遺跡からなる込山遺跡群に属している。込山遺跡群には、遮光器土偶の頭部が出土した込山D遺跡や、9世紀初頭頃の寺院とされ、礎石列や布目瓦が出土した込山庵寺などもあり、縄文時代、および古代の遺跡として古くから注目されていた。また、込山B遺跡内では平成11年度に発掘調査が実施されており、弥生時代中期及び、奈良・平安時代の遺構・遺物が確認されている。

今回、坂城町土地開発公社より宅地造成事業が計画され、遺跡が破壊される恐れが生じたため、試掘調査を実施して、遺構・遺物の確認を行うこととなった。

### 調査結果

開発対象地に計13本のトレンチを設定し、遺構の確認を行った。対象地は西に下がる地形で、以前の構造改善時に地盤の削平と盛土が行われており、3段に区画されていた。調査の結果、削平を受けたと思われる部分では遺構は検出されなかった。



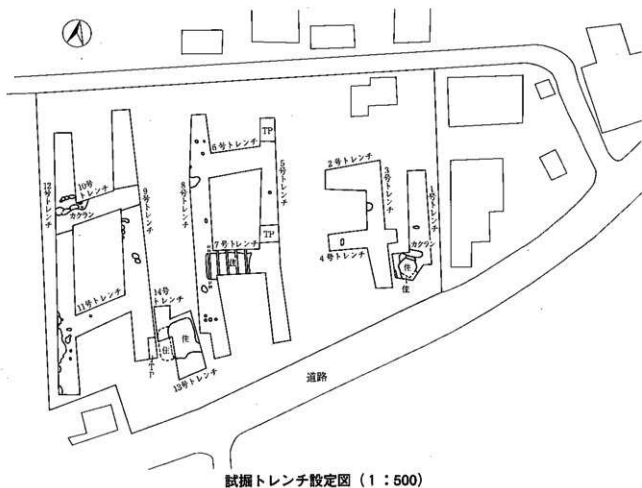
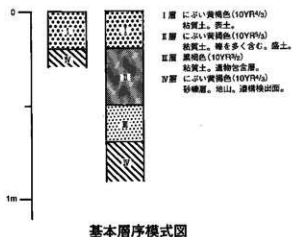
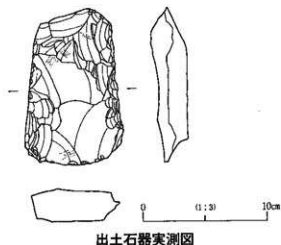
12号トレンチ検出状況 南より



13号トレンチ検出状況 南東より

しかし、盛土されたと思われる部分からは、5軒の竪穴住居址をはじめとする遺構を確認した。住居址からの出土遺物を見ると奈良・平安時代の土器片があることから、検出された竪穴住居址もその時期に属するものと思われる。他の遺物では、縄文時代の所産と思われる土器片、及び打製石斧と、土師器の坏や須恵器の坏・壺などが出土している。

この結果を基に事業主体である坂城町土地開発公社と保護措置について協議したところ、開発対象地に盛土を施して遺構を保護して宅地造成することが決まり、遺跡は保存されることとなった。



### 3 おおぎくぼ 大木久保遺跡

所在地	坂城町大字南条字大木 久保1982ほか
事業主体	坂城町都市・下水道課
事業名	宅地造成事業
調査期間	平成13年5月10日～ 平成13年5月15日
面積	12180㎡ (350㎡)
担当者	齋藤 達也



試掘調査位置図 (1:2500)

#### 遺跡の環境と調査に至る経過

大木久保遺跡は、坂城町大字南条に所在し、千曲川によって形成された洪積台地上に位置する。大木久保遺跡は金井東遺跡群の一部であり、遺跡群内には第1章でも触れた保地遺跡をはじめとして、山金井遺跡、酒玉遺跡の4遺跡がある。これらの遺跡の内、保地遺跡は発掘調査例はあるが、本遺跡では縄文～平安時代の遺物が採集されているのみで調査例がなく、遺跡の詳細は不明な状態である。

今回、坂城町都市・下水道課より宅地造成事業が計画されたため、遺跡が破壊される恐れが生じた。そのため、試掘調査を実施して、遺跡の有無を確認することとなった。



2号トレンチ検出状況 東より

#### 試掘結果

開発対象地は、沢の部分とそれを挟んだ段丘上に位置する。遺構は段丘上に存在すると思われたため、トレンチは段丘上を中心に図のように設定した。地山は、沢の周辺にあたる6～8号トレンチで地表下約1m、その他の段丘上のトレンチで地表下約30cmで確認できた。遺構の検出はこの面で行ったが、いずれのトレンチでも遺構・遺物は確認されなかった。



7号トレンチ検出状況 東より

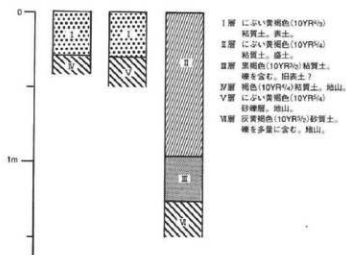


11号トレンチ検出状況 東より

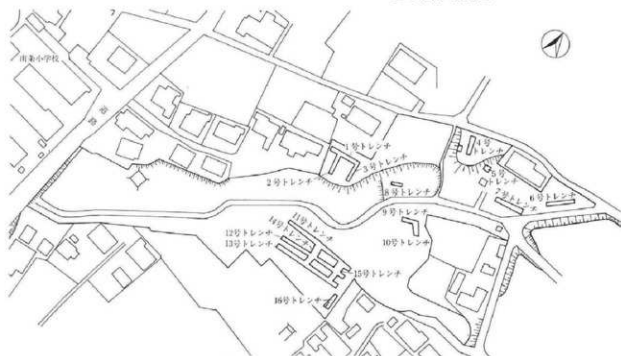


12号トレンチ検出状況 西より

前述のように本遺跡からは、縄文～奈良・平安時代の遺物が採集されていたが、採集されたのは今回の地点よりも西側とされているため、遺跡は調査地点より西側に分布していると予想される。



基本層序模式図



試掘トレンチ設定図 (1:2000)

## 4 よつや 四ツ屋遺跡群 4

所在地	坂城町大字坂城字山王 6795
事業主体	宮沢 英人
事業名	アパート建設事業
調査期間	平成13年5月16日～ 平成13年5月17日
面積	845㎡ (164㎡)
担当者	齋藤 達也



### 遺跡の環境と経過

四ツ屋遺跡群は坂城町大字坂城に位置し、御堂川と名沢川によって形成された扇状地の扇中央部に位置する。坂城町遺跡分布図では縄文～平安時代の集落址に位置付けられる。四ツ屋遺跡群は以前に3回試掘調査が実施されている。それは、平成10年度の宅地造成事業に伴う試掘調査（四ツ屋遺跡群）、平成12年度の福祉施設建設に伴う試掘調査（四ツ屋遺跡群2）、同じく平成12年度コミュニティ消防センター建設に伴う試掘調査（四ツ屋遺跡群3）である。この内、四ツ屋遺跡群3の試掘調査においては中世以降と思われる性格不明の遺構と石鉢・土器片が確認されている。しかし、保護措置として盛土保存としたこともあって、依然として不明な部分が多い遺跡群である。

今回、宮沢英人氏によりアパートの建設が計画され、遺跡を破壊する可能性が生じたため、試掘調査を実施して、状況を確認することとなった。開発対象地は平成12年度に試掘調査を実施した四ツ屋遺跡群3から約100m南東に位置し、標高は約420mを測る。



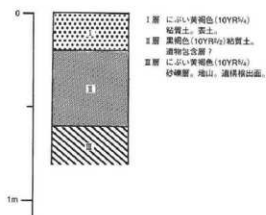
調査区全景 北より



4号トレンチ検出状況 東より



1号トレンチ検出状況 西より

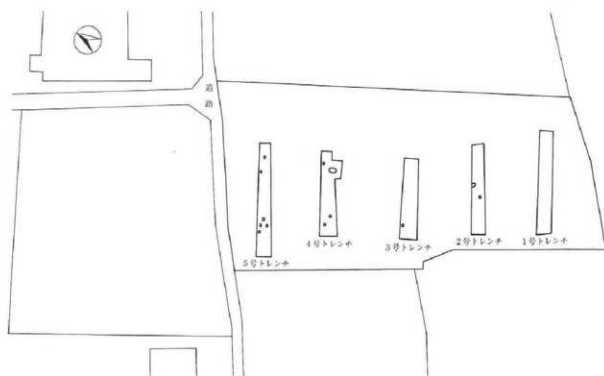


基本層序模式図

## 調査結果

開発対象地は西に下がる地形のため、東西に長いトレンチを5本設定して、遺構を検出した。遺構検出作業は地表下約60cmの砂礫を多量に含む地山層である第Ⅲ層上面で行った。遺構は2～5号トレンチで確認され、土坑址1基、ピット12基が検出された。遺物は土器片が数点確認されているが、いずれも細片で所属時期を窺い知ることは不明である。

この結果を踏まえて、原因者と遺跡の保護措置について検討した結果、建物は遺構を保護するために十分な盛土を施した上に建設することが決定し、遺跡は保護されることとなった。

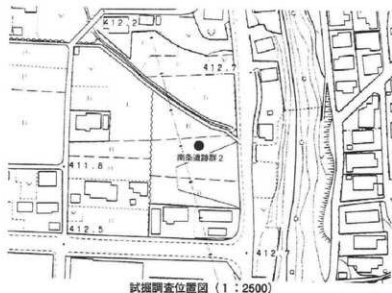


試掘トレンチ設定図 (1:600)



## 5 <sup>みなみじょう</sup>南条遺跡群2

所在地	坂城町大字南条字青木下632
事業主体	青木 悦子
事業名	アパート建設事業
調査期間	平成13年7月2日
面積	542㎡ (40㎡)
担当者	齋藤 達也



試掘調査位置図 (1:2500)

### 遺跡の環境と経過

南条遺跡群は、坂城町大字南条の千曲川によって形成された自然堤防と後背湿地上に位置する。南条遺跡群は、東裏、御殿裏、百々目利、仲町、田町、廻り目、塚田、青木下の8遺跡からなる遺跡群で、弥生～平安時代の集落址に位置づけられている。

遺跡群内では東裏遺跡や塚田遺跡、青木下遺跡で発掘調査が実施され、これ以外の遺跡でも遺物は採集されている。この内、塚田遺跡では弥生時代後期の集落が確認され、東裏遺跡では、古墳時代後期の玉造り工房とされる住居址が3棟検出されている。さらに、東裏遺跡に隣接する青木下遺跡からは、全国的にも注目された古墳時代後期～奈良時代の祭祀遺構が出土するなど、町内でも特に注目すべき遺跡が集中している地域といえよう。

今回、青木下遺跡の北側の水田に、青木悦子氏によるアパート建設が計画され、遺跡が破壊される恐れが生じたため試掘調査を実施することとなった。

### 調査結果

開発対象地とその周辺は水田地帯で、トレンチを設定して掘削しても、すぐに水が湧き、壁面が崩壊してしまうため、トレンチによる



調査区全景 北西より



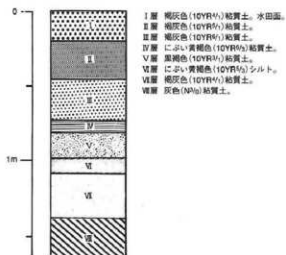
4号トレンチ検出状況 西より



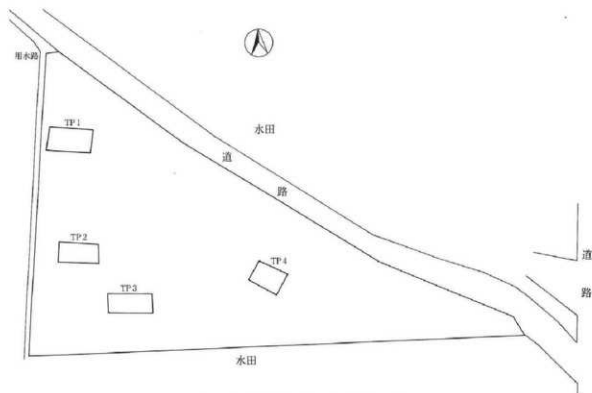
TP4 検出状況 西より

調査は大変危険な状況であった。そのため、4×2 m程度のテストピットを4ヶ所に設定し、遺構の確認を行った。激しい湧水により壁面は短時間で崩れていくため、テストピット内に降りることもできない状況であった。いずれのテストピット

も地表から140～170cm掘り下げたが、近世以降と思われる水田面が壁面で確認できたのみで遺構は検出されなかった。この段階で、湧水などによる調査の危険性と、周辺遺跡の調査結果などを加味し、これ以上掘りさげても遺構は存在しないものと判断し、それ以上の掘り下げは行わなかった。



基本層序模式図



試掘トレンチ設定図 (1:400)

## 6 よつや 四ツ屋遺跡群 5

所在地 坂城町大字坂城字四ツ屋9462-2、9465-1、9469-1、9470、9471-1  
事業主体 水出 啓之  
事業名 店舗建設  
調査期間 平成13年10月22日～平成13年10月23日  
面積 2238㎡ (233㎡)  
担当者 齋藤 達也



試掘調査位置図 (1:2500)

### 遺跡の環境と調査に至る経過

四ツ屋遺跡群は坂城町大字坂城に位置し、御堂川と名沢川によって形成された扇状地の扇状部に位置し、標高は今回調査地点において約400mを測る。

今回の試掘調査は、水出啓之氏により店舗建設が計画されたため、遺跡の有無を確認し、遺跡が存在していた場合に適切な保護措置を講ずるため実施されたものである。

前にも触れたように、四ツ屋遺跡群は、平成12年度までに計3回の試掘調査(第Ⅱ章4 四ツ屋遺跡群4参照)が実施されている。また、平成13年度は、四ツ屋遺跡群4に次いで今回で2回目となる。しかし、これまでのところ、四ツ屋遺跡群の状況は依然として不明瞭といえる。

### 調査の結果

店舗の建設が予定されている開発対象地内の東側を中心に5本のトレンチを設定して、遺跡の確認を行った。遺構の検出は基本層序第Ⅴ層にて試みたが、遺構は検出されなかった。



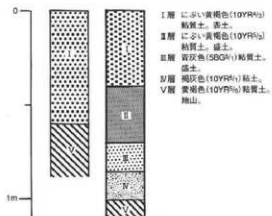
1号トレンチ検出状況 北より



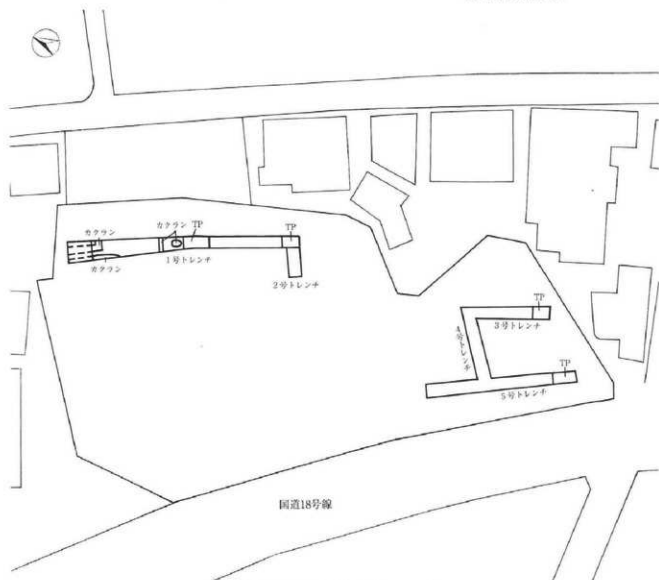
4号トレンチ検出状況 南より



5号トレンチ検出状況 南より



基本層序模式図



試掘トレンチ設定図 (1 : 500)

## 7 ぶぎょうどう 豊饒堂遺跡Ⅱ

所在地 坂城町大字中之条1432-1  
 事業主体 坂城町農林課  
 事業名 農道建設事業  
 調査期間 平成13年11月5日～  
 平成13年11月7日  
 面積 472㎡ (134㎡)  
 担当者 齋藤 達也



### 遺跡の環境と経過

豊饒堂遺跡は坂城町大字中之条に所在する。近隣では、平成5年度に発掘調査が実施され、縄文時代早期の特殊遺構や弥生時代後半～古墳時代初頭、及び平安時代の遺構・遺物が検出されている。また、平成12年度にも試掘調査が実施されている。

今回は坂城町農林課より農道建設が計画され、遺跡が破壊される恐れが生じたため、試掘調査を実施することとなった。

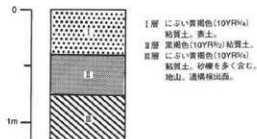


1号トレンチ検出状況 南より

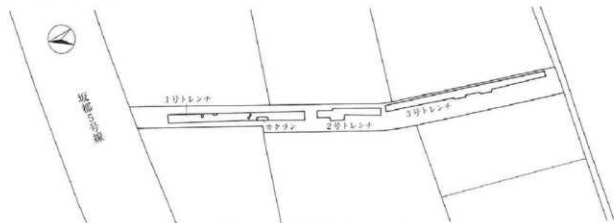
### 調査の結果

開発対象地に3本のトレンチを設定した。遺構はピットのみであるが、1号トレンチの地表下50～90cmの基本層序模式図第三層上面にて確認された。遺物も土器片が出土したが細片のため、所属時期は不明である。

この結果を基に、坂城町農林課と保護措置について協議した結果、発掘調査を実施することが決まり、この後、発掘調査が実施された。

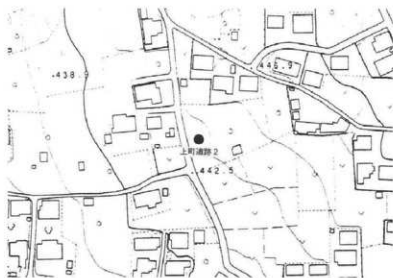


基本層序模式図



## 8 <sup>うわまち</sup>上町遺跡 2

所在地	坂城町大字中之条字上町1264-4
事業主体	竹田 勝一
事業名	アパート建設事業
調査期間	平成13年11月21日～ 平成13年11月26日
面積	896㎡ (210㎡)
担当者	齋藤 達也



試掘調査位置図 (1:2500)

### 遺跡の環境と経過

上町遺跡は坂城町中之条の御堂川によって形成された扇状地の扇尖部に位置する。

上町遺跡は中之条遺跡群に属する遺跡で、隣接する寺浦遺跡や北川原遺跡で実施された発掘調査では、古墳時代後期～平安時代にかけての遺構・遺物が多く確認されており、特に消防分署建設に伴って実施された寺浦遺跡Ⅱの発掘調査では、2間×4間や3間×5間の大型の掘立柱建物址が確認されている。上町遺跡でも、平成6年度(2ヶ所)と平成11年度に3回発掘調査が実施されている。平成6年度の調査では、いずれも縄文時代前期、及び古墳時代後期～平安時代の住居址や土坑址などの遺構と、灰釉陶器をはじめとする遺物が確認されている。また、平成11年度の調査では、古墳時代～平安時代の遺構と共に奈良二彩が出土したことから、寺浦遺跡Ⅱの大型掘立柱建物址と合わせて、この地域に邸家などといったこの地域を統率していた施設が存在した可能性が示唆されている。

今回、この地に竹田勝一氏によりアパートの建設が計画され、遺跡を破壊する恐れが生じたため、試掘調査を実施して遺跡の確認を行うこととなった。



1号トレンチ検出状況 西より

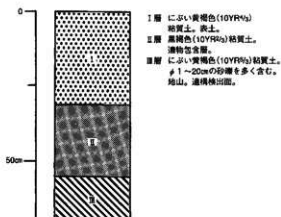


1号トレンチ住居址検出状況 東より

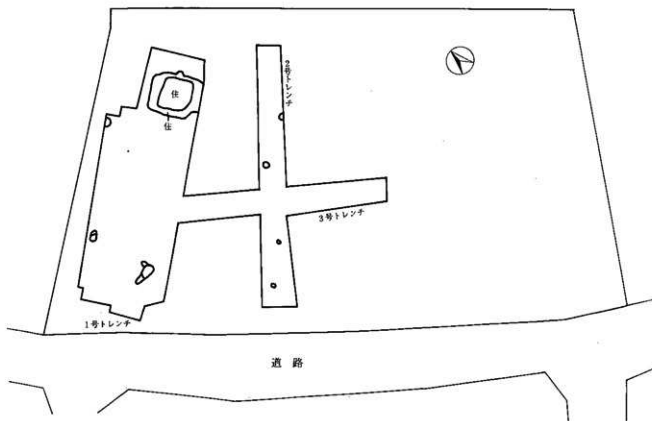
## 調査の結果

アパートが建設される部分を中心に下図のようにトレンチを設定して遺構・遺物の確認を行った。遺構の検出は地山と思われる基本層序模式図のⅢ層上面にて行なった。遺構は、竪穴住居址2棟、ピット16基が検出され、遺物は古墳～平安時代の土師器・須恵器片が出土した。検出された遺構もこの時期に属するものと思われ、以前の調査で確認されていた古墳～平安時代の集落がここまで広がっていたことが明らかとなった。

この結果をもとに保護措置について協議したところ、遺構がトレンチの東に集中していたため、アパートの建設位置を移動した上で、盛土を施して遺構を保護することが決定し、遺跡は保存されることとなった。



基本層序模式図



試掘トレンチ設定図 (1 : 300)

## 9 御堂川古墳群前山支群 2

所在地 坂城町大字中之条  
1850ほか  
事業主体 葛尾組合  
事業名 斎場建設  
調査期間 平成13年11月21日～  
平成13年11月26日  
面積 7000㎡ (512㎡)  
担当者 齋藤 達也



試掘調査位置図 (1 : 2500)

### 遺跡の環境と経過

御堂川古墳群は坂城町大字中之条地区に所在し、御堂川上流の両岸に広がる古墳群である。御堂川古墳群は5つの支群で構成され、右岸上流から前山、山田、東平の3つの支群と、左岸上流から山崎・山口の2つの支群に分けられる。

前山支群は御堂川古墳群でも最大の支群で、前山1号・2号墳は昭和48・49年に町誌編纂のため坂城町教育委員会によって発掘調査が実施されている。調査の結果、前山1号墳の横穴式石室からは土師器・須恵器などのほかに、金銅製の耳環や白玉、帯金具、鉄鎌などが出土した。古墳の所属時期は出土した須恵器から6世紀後半、7世紀中葉、8世紀代の3つの年代が与えられており、耳環の出土状況を考慮するとこの古墳に複数回にわたって追葬されたことが分かっている。また、前山4号墳は葛尾組合敷地拡張時に破壊されてしまったが、その際全長93cmの直刀が出土している。

今回は、葛尾組合による斎場建設事業に先立ち、遺跡の確認と、遺跡が存在していた場合に必要なる保護措置を講ずるために実施する試掘調査である。調査地点は葛尾組合敷地北



2号トレンチ検出状況 北東より



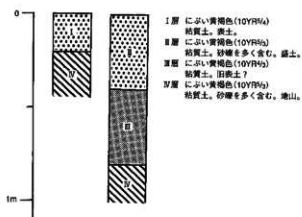
3号トレンチ検出状況 北東より



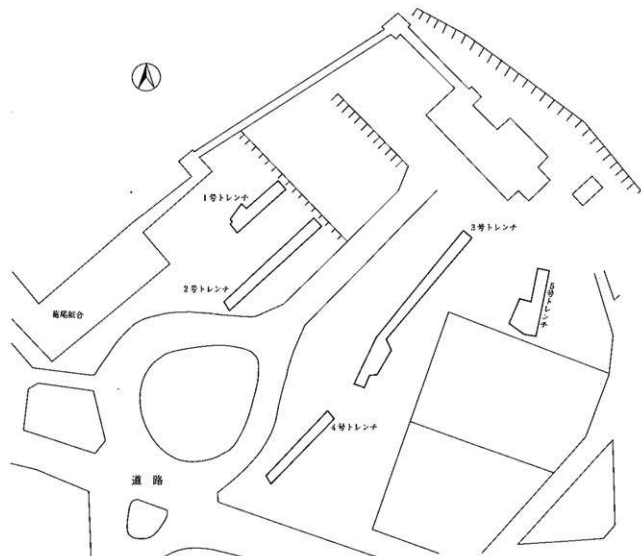
東部で、前山4号墳があったとされる地点の周辺にあたる。

## 調査の結果

下図のように5本のトレンチを設定し、遺跡の確認を行った。基本層序模式図第IV層上面で遺構検出を試みたが遺構・遺物は検出されなかった。また、各トレンチのセクションを見ると、調査地点は以前に削平・盛土などの地盤改良を行っている可能性があり、仮に古墳などの遺構がかつて存在したとしても、既に破壊されてしまった可能性が高いことが明らかとなった。



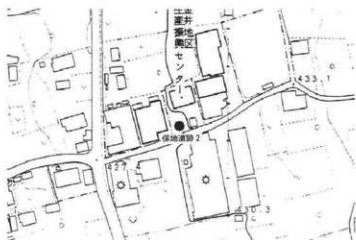
基本層序模式図



試掘トレンチ設定図 (1 : 800)

## 10 ぼち 保地遺跡 2

所在地 坂城町大字南条字保地2330-1  
 事業主体 坂城町総務課  
 事業名 防火水槽建設  
 調査期間 平成13年12月25日  
 面積 15㎡ (15m)  
 担当者 齋藤 達也



試掘調査位置図 (1:2500)

### 遺跡の環境と調査に至る経過

保地道跡は坂城町大字南条に所在し、谷川が形成した扇状地の扇中部に位置する。保地道跡は昭和40年と平成11年度に発掘調査が実施され、中でも平成11年度に実施された調査では、縄文時代後期に属する墓址が遺存状態の良い人骨を伴って出土するなど、町内でも貴重な資料が得られている。

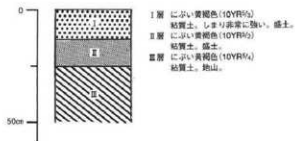
今回、平成11年度発掘調査地点より南東約150m程の地点に、坂城町総務課より防火水槽の建設が計画され、遺跡が破壊される恐れが生じたことから試掘調査を実施して遺跡の確認を行うこととなった。



1号トレンチ検出状況 西より

### 調査の結果

計画された防火水槽は面積が小さいため、建設予定地のほぼ全域をトレンチ状に掘り下げた。地山層は基本層序第Ⅲ層以下と思われる、地表下20~30cmで確認した。この上面において遺構確認を行ったが、遺構・遺物は共に出土しなかった。この結果は調査面積が小さかったことによるものであり、周辺には遺跡が存在しているものと思われる。



基本層序模式図



試掘トレンチ設定図 (1:400)

## 11 よつや 四ツ屋遺跡群 6

所在地	坂城町大字坂城9127-3ほか
事業主体	長野県長野地方事務所
事業名	農道建設
調査期間	平成14年2月18日
面積	498㎡ (103㎡)
担当者	齋藤 達也



試掘調査位置図 (1:2500)

### 遺跡の環境と調査に至る経過

四ツ屋遺跡群は坂城町大字坂城に位置し、御堂川と名沢川によって形成された扇状地の扇央部に位置する。

四ツ屋遺跡群の試掘調査は、通算6ヶ所目(第Ⅱ章4 四ツ屋遺跡群4・第Ⅱ章6 四ツ屋遺跡群5参照)で、今年度は3回目となる。今回の調査地点は平成10年度に実施された四ツ屋遺跡群試掘調査地点から南東約150mに位置し、標高は約435mを測る。

今回の試掘調査は、長野県長野地方事務所による農道建設が計画され、遺跡が破壊される可能性が生じたため、遺跡の確認を行うために実施されたものである。



1号トレンチ掘削状況 南東より

### 調査結果

対象地に2本の試掘トレンチを設定して遺跡を確認した。土層は2層に分層できた。I層は表土にぶい黄褐色を呈する粘質土である。第Ⅱ層は、地表下25~40cmで現れる土層で、にぶい黄褐色を呈する砂礫層である。遺構確認作業は第Ⅱ層の上面で行った。しかし、遺構・遺物は確認されなかった。

四ツ屋遺跡群は坂城町遺跡分布図によると、四ツ屋地区全域が縄文~平安時代の集落址に位置づけられている。しかし、四ツ屋遺



1号トレンチ検出状況 西より

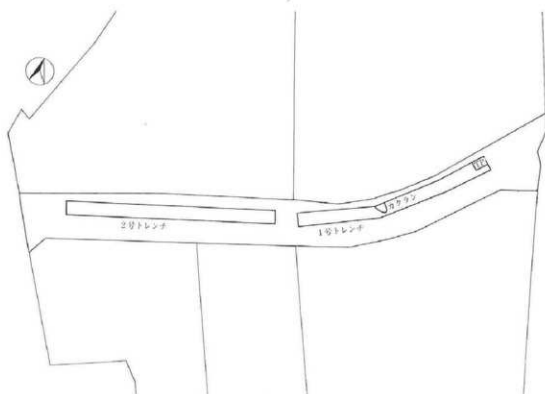
跡群の調査で遺構が確認されたものは、平成11年度の四ツ屋遺跡群3と、今年度の四ツ屋遺跡群4のみである。検出された遺構についても、ピットなどが比較的散漫に検出されているのみで、遺物も少量である。平成10年度に実施された四ツ屋遺跡群の調査では遺物のみ確認されているが、それ以外の3回の調査では遺物でさえ確認できていない。そのことから、今後四ツ屋遺跡群は、試掘調査等を重ねてデータを蓄積しつつ、遺跡の分布について再検討と修正が必要といえよう。



2号トレンチ検出状況 西より



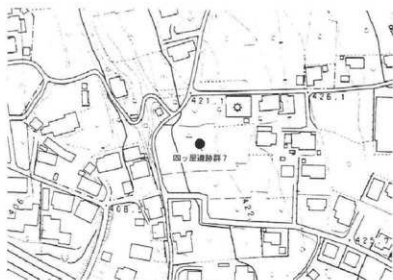
基本層序模式図



試掘トレンチ設定図 (1 : 500)

## 12 よつや 四ツ屋遺跡群 7

所在地	坂城町大字坂城字原 9102-3、9103
事業主体	三井 すみ子
事業名	アパート建設
調査期間	平成14年3月13日～ 平成14年3月14日
面積	1164㎡ (342㎡)
担当者	齋藤 達也



試掘調査位置図 (1:2500)

### 遺跡の環境と経過

四ツ屋遺跡群は坂城町大字坂城に位置し、御堂川と名沢川によって形成された扇状地の扇尖部に位置する遺跡群である。

今回、三井すみ子氏によりアパート建設が計画されたため、試掘調査を実施して遺跡の確認をすることとなった。

調査地点は四ツ屋遺跡群内でも南部に位置し、今年度に試掘調査が実施された四ツ屋遺跡群6から西南に約200m、平成12年度に実施された四ツ屋遺跡群3から北へ約100mの地点に位置する。調査地点は西に下がる地形を呈し、そのさらに西側は千曲川によって形成された段丘の端部になっており、崖のように急激に下がっている。標高は約420mを測る。

### 調査結果

地形を考慮し、東西に長いトレンチを3本設定して遺跡の確認を行った。

土層は3層に分層できた。第Ⅰ層は、にぶい黄褐色を呈する粘質土で表土である。第Ⅱ層は、暗褐色を呈する粘質土である。遺物包含層とも思われたが、遺物は確認できなかった。第Ⅲ層は、にぶい黄褐色を呈する砂礫層



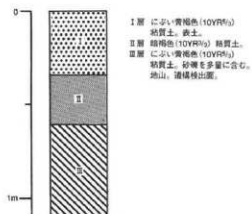
2号トレンチ検出状況 西より



3号トレンチ検出状況 東より



1号トレンチ検出状況 南より



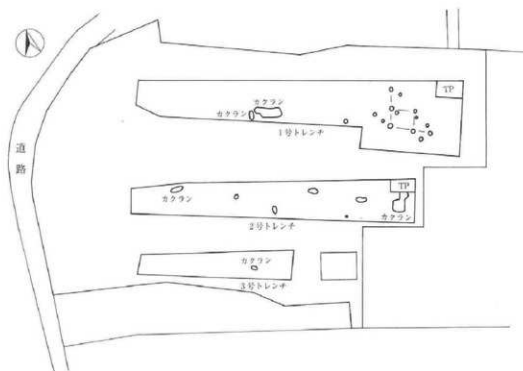
基本層序模式図

で地山である。遺構の検出はこの第Ⅲ層の上面上にて行った。

遺構は1・2号トレンチで確認され、掘立柱建物

址1棟、ピットが13基検出された。また、これらが、1・2号トレンチの東側に集中していたことから、西側の段丘の縁辺付近には遺跡が存在していない可能性が高いことも看取できた。検出された掘立柱建物址とピットのほとんどは、1号トレンチ東側に集中していることから、今回の試掘調査では掘立柱建物址は1棟の検出としたが、トレンチ外にもピットが存在している可能性を考慮すれば、1号トレンチでピットとしたものは、実際には掘立柱建物址の一部とも考えることが可能であろう。

調査の結果、事業の実施にあたり記録保存のための発掘調査が必要となるため、原因者側と協議を行った。保護措置として現況地盤に盛土を施して、その上に建物を建築することが決定し、遺跡は保存されることとなった。



試掘トレンチ設定図 (1:500)

## 報告書抄録

ふりがな	ちょうないせきはくつちょうさほうこくしょ
書名	町内遺跡発掘調査報告書 2001
副書名	平成13年度試掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	坂城町埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第21集
編著者名	齋藤 達也
編纂機関	坂城町教育委員会
所在地	〒389-0602 長野県埴科郡坂城町大字中之条2468 TEL.0268-82-2069
発行年月日	2002年3月29日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
土井ノ入遺跡2	坂城町大字坂城	1521		36°27'49"	138°11'55"	2001年4月23日～ 2001年4月26日	362	グラウンド造成
込山B遺跡2	坂城町大字坂城	1521		36°27'52"	138°11'28"	2001年4月26日～ 2001年5月7日	471	宅地造成
大木久保遺跡	坂城町大字南条	1521		36°25'54"	138°11'56"	2001年5月10日～ 2001年5月15日	350	宅地造成
四ツ屋遺跡群4	坂城町大字坂城	1521		36°27'22"	138°11'31"	2001年5月16日～ 2001年5月17日	164	アパート建設
南条遺跡群2	坂城町大字南条	1521		36°25'32"	138°11'58"	2001年7月2日	40	アパート建設
四ツ屋遺跡群5	坂城町大字坂城	1521		36°27'13"	138°11'22"	2001年10月22日～ 2001年10月23日	233	店舗建設
豊饒堂遺跡II	坂城町大字中之条	1521		36°26'37"	138°12'20"	2001年11月5日～ 2001年11月7日	134	農道建設
上町遺跡2	坂城町大字中之条	1521		36°26'28"	138°11'59"	2001年11月21日～ 2001年12月26日	210	アパート建設
御堂川古墳群前山支群2	坂城町大字中之条	1521		36°26'45"	138°12'37"	2001年12月19日～ 2001年12月20日	512	産場建設
保地遺跡2	坂城町大字南条	1521		36°26'5"	138°11'54"	2001年12月25日	15	防火水槽建設
四ツ屋遺跡群6	坂城町大字坂城	1521		36°27'5"	138°11'47"	2002年2月18日	103	農道建設
四ツ屋遺跡群7	坂城町大字坂城	1521		36°27'1"	138°11'37"	2002年3月13日～ 2002年3月14日	342	アパート建設

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
土井ノ入遺跡2	集落址	古墳～平安	なし	なし	
込山B遺跡2	集落址	縄文～平安	住居址・土坑址・ピット	縄文土器・石器・土師器・須恵器	
大木久保遺跡	集落址	奈良～中世	なし	なし	
四ツ屋遺跡群4	散布地	古墳～平安	土坑・ピット	土器(時期不明)	
南条遺跡群2	集落址	縄文～平安	なし	なし	
四ツ屋遺跡群5	集落址	縄文	なし	なし	
豊饒堂遺跡II	散布地	縄文～平安	土坑址・ピット	土器(時期不明)	
上町遺跡2	散布地	縄文～平安	竪穴住居址・ピット	土器(古墳～平安)	
御堂川古墳群前山支群2	古墳	古墳	なし	なし	
保地遺跡2	集落址	縄文～平安	なし	なし	
四ツ屋遺跡群6	集落址	縄文～平安	なし	なし	
四ツ屋遺跡群7	集落址	縄文～平安	掘立柱建物址、ピット	なし	

## 坂城町埋蔵文化財調査報告書

	『開畝製鉄遺跡－第1次調査報告書』	1977
	『開畝製鉄遺跡－第2次調査報告書』	1978
	『東裏遺跡』	1983
	『中之条遺跡群 宮上遺跡Ⅱ』（概報）	1993
	『南条遺跡群 塚田遺跡』	1993
第1集	『南条遺跡群 東裏遺跡Ⅱ・青木下遺跡』	1994
第2集	『町内遺跡発掘調査報告書』	1994
第3集	『町内遺跡発掘調査報告書』	1995
第4集	『南条遺跡群 塚田遺跡Ⅱ』	1995
第5集	『豊饒堂遺跡・上町遺跡・寺浦遺跡・東町遺跡』	1996
第6集	『中之条遺跡群 寺浦遺跡Ⅱ』	1996
第7集	『中之条遺跡群 上町遺跡Ⅱ』	1996
第8集	『上五明冬里水田址』	1996
第9集	『町内遺跡発掘調査報告書1995』	1996
第10集	『坂城町試掘調査・立会い調査報告書』	1996
第11集	『町内遺跡発掘調査報告書1996』	1997
第12集	『戌久保遺跡・町横尾遺跡』	1998
第13集	『込山Bほか 発掘調査報告書 1997』	1998
第14集	『町内遺跡発掘調査報告書1998』	1999
第15集	『町内遺跡発掘調査報告書1999』	2000
第16集	『開畝遺跡Ⅲ』	2000
第17集	『中之条遺跡群 北川原遺跡Ⅱ』	2001
第18集	『町内遺跡発掘調査報告書2000』	2001
第19集	『中之条遺跡群 宮上遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ』	2001
第20集	『金井東遺跡群 保地遺跡Ⅱ』	2002
第21集	『町内遺跡発掘調査報告書2001』（本書）	2002

---

発行日	2002年3月29日
編集者	坂城町教育委員会 〒389-0602長野県埴科郡坂城町大字中之条2468番地 TEL 0268 (82) 2069
印刷者	信毎書籍印刷株式会社 〒381-0037長野県長野市西和Ⅲ470 TEL 026 (243) 2105

---



